

評価シート（年度評価）

名古屋市東谷山フルーツパークの管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	公益財団法人名古屋みどりの協会		
主な業務内容	東谷山フルーツパークの管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市守山区大字上志段味東谷2110		
評価対象期間	令和4年4月～令和5年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和10年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項	
管理体制及び協働	1 管理体制	職員配置	○	地元地域を始め、市民や企業等と協働して施設運営を行った。	
		緊急時の体制	○		
		人材育成等	○		
	2 協働	市民等との協働	◎		
		外部関係者との協働	○		
維持・管理運営等	1 維持管理	園内清掃	○	温室内でもアンケートを実施し、温室の利便性向上に努めた。また、大会議室に個別空調機を設置し利用者の快適性を向上させた。	
		建物・設備の管理	○		
		保守・点検・修繕	○		
		植物管理	○		
		管理水準の維持	○		
		関係書類の調製・保管	○		
		2 運営管理	利用者アンケートの実施		◎
	利用者ニーズの把握と反映		○		
	利用者サービス向上策		◎		
	接客・接客向上の取組み		○		
	苦情・要望に対する適切な処理		○		
	個人情報の適切な管理		○		
	3 この施設特有の管理	「農」に関する取組み	○		開花に合わせたウメ園の開放や温室内での展示会など魅力アップの取組みが行われた。また、報道機関への情報提供の結果、TVや新聞等でよく取り上げられた。
		果樹育成の考え方	○		
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	◎		
		イベント等の実施	○		
		講習会等の実施	○		
		利用者への広報・情報提供の実施	◎		
	利用者数の増加	○			
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	収益還元により果樹園の説明看板の更新を実施した。	
		集客対策への効果	○		
		自主事業の収支及び還元	◎		
		便益施設の管理運営	○		
収支	1 収支	経費節減策	○	燃料費高騰に伴う市からの指定管理料の増額もあったが、支出超過となった。	
		年間収支	△		
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○		
		事業計画との比較分析	○		

【総合評価】

評価できる点として、学校等との連携や施設の活性化、開花に合わせたウメ園の開放など工夫しながら来園者が楽しめる取り組みを行っていること、温室でのアンケート実施など利用者ニーズを把握して施設運営に生かしていること、積極的に地産地消に取り組まれていることが挙げられる。コロナの影響がある中、積極的な情報発信に努められ、魅力を強く発信し、春の来客の伸びを含め入園者数が増加した点も評価できる。また、予想外の人件費高騰の中、特に自主事業については、新たな取り組みを始めており、運営に関して意欲が感じられた。

今後は、駐車場の綿密な管理（除草やせん定）、冬の集客策の強化に努めて頂きたい。また、利用料金の増収や人件費の削減に取り組んで頂きながら、計画的に修繕等を進めて頂きたい。事業報告概要について、やむを得ずに起こったことに対応したことを新たな取り組みとしているため、評価を受けるという観点からも、しっかり分析を行って頂きたい。

施設の現状

名古屋市東谷山フルーツパーク

施設の現状	施設概要							
	果樹栽培の技術等の研究指導を行うとともに、市民に自然に恵まれたレクリエーション活動の場の提供を目的とした施設です。具体的には季節に応じて年3回(4月・5月・11月)の催事や、くだものや東谷山等の展示会(年25回)、果樹栽培等の講座(年49回)、くだものの収穫体験(年59回)などを行っています。 平成30年度からの指定期間については、魅力ある施設とするための民間投資を行いやすく、また、安定的なサービスの提供を期待できると考え、10年としています。							
	市の収支状況(千円) (4年度決算(見込)額)							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	147,540	21,312	168,852	2,247	5,618	160,987	168,852	13,456
	特記事項							
指定管理料は、燃料費高騰の影響による補てんにより増額。								
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	入園者数		人	502,736	395,593	442,853	493,589	
	世界の熱帯果樹温室入館者数		人	33,133	21,224	25,061	29,841	
	利用者1人あたりの運営費		円	290.3	372.8	332.2	298.9	
	特記事項							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載

名古屋市長谷山フルーツパークにおける指定管理者の管理運営実績													
1 基本情報						＜所管局：緑政土木局＞							
指定管理者	公益財団法人名古屋市みどりの協会												
主な業務内容	名古屋市長谷山フルーツパークの管理運営業務												
評価対象期間	平成30年4月～令和5年3月			指定管理期間	平成30年4月～令和10年3月								
2 管理運営状況（評価結果の推移）													
評価項目		評価区分					特記事項						
1 管理体制	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【H30】市民や大学等と協働して施設やイベントの魅力増進を図った。 【R1】市民や大学、地域等と協働して維持管理や来園者サービスを行った。また、果樹管理について関連団体と情報交換を行った。 【R2】さくら守りボランティアなど市民と協働して維持管理・来園者サービスを行った。 【R3】職員の避難所受付訓練を実施した。 【R4】地元地域を始め、市民や企業等と協働して施設運営を行った。							
職員配置					○								
緊急時の体制					○								
人材育成等					○								
2 協働	◎	○	○	○	4年度								
市民等との協働					◎	【H30】運営計画にある体験型果樹園への再編やシダレザクラの更新に着手した。 【R1】温室の加圧給水ユニット等の施設修繕を行った。植物管理では、ブドウの雨除けシート設置他、各果樹に合せた管理を行い、また、剪定枝をチップ化して活用するなど環境に配慮した取り組みも見られた。 【R2】送水管などの老朽化施設の修繕や温室設備の修繕を進めた。危険な枯木の伐採・撤去など園内の安全管理に努めた。温室植物について薬剤を使わずに、薬水や剪定により害虫防除を行った。 【R3】設備の老朽化に対する対策を実施した。温室の不具合の修繕を行った。							
外部関係者との協働					○								
3 維持管理	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度								
園内清掃					○								
建物・設備の管理					○								
保守・点検・修繕	○	○	◎	◎	○								
植物管理					○								
管理水準の維持					○								
関係書類の調製・保管					○								
4 運営管理	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【H30】前年度に得た利用者からの要望を反映した講習会の改編など、利用者ニーズを反映させた取組みを行ったり、接遇研修を行ったりした。 【R1】イベントや講習会でアンケートを行い、その結果も取り入れて運営を行った。 園内マップや各月の温室見所マップを作成したり、車いす利用者の収穫体験への受け入れを行ったり、サービス向上に取り組んだ。 【R2】ホームページのリニューアルや園内リーフレットの作成を行った。また、消毒や換気、席数の削減など感染症対策を実施した。 【R3】園内のみどころや概要をまとめたポスターパネルを制作した。レストハウスのトイレの自動水洗化工事を実施した。 【R4】温室内でもアンケートを実施し、温室の利便性向上に努めた。また、大会議室に個別空調機を設置し利用者の快適性を向上させた。							
利用者アンケートの実施					◎								
利用者ニーズの把握と反映					○								
利用者サービス向上策	○	○	○	○	◎								
接客・接遇向上の取組み					○								
苦情・要望に対する適切な処理					○								
個人情報の適切な管理					○								
5 この施設特有の管理	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【H30】果樹について様々な体験講座や講習会等を行った。また、温室での体験イベント等を実施し、施設の魅力アップに取り組んだ。 【R1】果樹について来園者が体験できる様々な取組みを行った。台風による秋のイベントの一部中止等もあったが、自主事業の集客効果もあり、前年度より利用者数が増加した。 【R2】感染症対策を講じながら収穫体験等を実施した。また、感染拡大防止のため実施を中止した試食イベントに代え、バナナパーバー作りなど体験イベントを実施した。 【R3】公園利用プログラムを作成した。ブルーベリー園を拡大し、体験型果樹園への再編を目指した。 【R4】開花に合わせたウメ園の開放や温室内の展示会など魅力アップの取組みが行われた。また、報道機関への情報提供の結果、TVや新聞等でよく取り上げられた。							
「農」に関する取組み					○								
果樹育成の考え方					○								
6 魅力増進・利用促進					4年度								
魅力の増進策	○	◎	○	○	◎								
イベント等の実施					○								
講習会等の実施					○								
利用者への広報・情報提供の実施					◎								
利用者数の増加					○								
7 自主事業	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【H30】運営計画に沿って施設のリニューアルや新設を行い、集客に効果が見られた。ただ、収支は計画以上に支出超過となった。 【R1】恒例のイベントに加え、前年度に新設や改修した施設に関連付けたイベントも実施し、春や秋のみならず、利用者にとって冬の時期の来園動機にもなった。一方で、台風や新型コロナウイルス感染防止によるイベントの縮小・中止もあり、見込みほど収入が得られず、収益が出せなかった。 【R2】感染拡大防止の影響で3大イベントは中止や縮小になったが、毎月の「フルーツふれあいDAY」などミニイベントを実施した。収支は支出超過となり、収益還元ができなかった。 【R3】計画時より売店やレストハウスの売り上げが増えたが、支出超過により収益還元できなかった。 【R4】収益還元により果樹園の説明看板の更新を実施した。							

平成30年度	評価できる点としては、市民・大学・企業とさまざまな取り組みを行っていること、企業と連携し、ふるさとナゴヤレモン園の取組が順調にスタートできたことがあげられる。 今後は、パブリシティを活用するなど知名度の向上に努めること、人件費増を中長期で考えること、収入等の面で自己評価をもう少し厳しくすること、入園者数の目標達成に努めること、展示スペースを他のフルーツテーマパークとの連携に活用することを検討していただきたい。また、地域連携、地産地消についてのさらなる取り組みや、国産レモンのニーズが高まっているので、レモン園の今後の発展に期待している。
令和元年度	評価できる点としては、市民や外部団体との協働について多くの新たな取り組みが行われていること、様々な企画の提案・実施（コロナのため実行できなかったものもあったが）等の効果で入園者数が前年度より増加したこと、収支の改善が見られたこと、寄付によるブドウの新品種を植付けたこと、職員のマルチスタッフ化や来園者へのあいさつ、丁寧な指導と案内、熱意ある来園者へのおもてなしが挙げられる。 今後は、引き続き接客サービスの向上に努めること、自主事業の収支を改善すること、広報など新しい集客方法を用いること、園内の歩道に垂れ下がる枝の管理について検討していただきたい。
令2年度	評価できる点としては、臨時閉園中においても電話相談を継続して実施していたこと、新たな取組に多くチャレンジしたこと（ヨーヒーインストラクター検定取得講座はユニークな取組）、コロナ禍のもとで感染防止に留意しつつ、バナナペーパー作りなどの体験イベントを実施し、魅力の向上を行っている点が挙げられる。また、4、5月を除くと入園者数が前年比100%以上であったこと、自主事業は何とかやりとげたこと、果樹栽培や樹木に詳しい職員が所属している、温室展示植栽のより一層の充実を図ること、園内の歩道の枝の垂れ下がりを改善したこと、「しだみ古墳群ミュージアム」や守山区役所との連携を行い、イベント等の開催を相互協力による企画をし、来場者の向上を図ったことも評価できる。 志段味東小学校3年生の総合学習の展示はとても良いため、今後とも継続されることを期待している。また、体験型果樹園への再編について期待している。 改善、対応いただきたい点としては、寄附によるブドウの新品種の場所がよく分からなかったため、園内マップを置いていただけないかという点、事業報告書にある「果樹の品種」と園内看板にある品種名が一致しないため、その確認や更新、令和2年度収支はコロナ影響による市の指定管理料補填により若干の収支改善が見受けられたが、令和3年度以降は自主努力による対応を、また、シダレザクラの里保存プロジェクトの状況やふるさとナゴヤレモン園の状況が計画と比べてどの程度達成されているかについての事業報告書への記載、協定に記載されている事項を熟読して事業運営を行うことが挙げられる。
令3年度	評価できる点としては、温室の修繕やレストハウス手洗い蛇口の自動水洗化に取り組んだこと、ポスターパネルの制作や園内パンフの作成、大学等の多種多様な主体との連携が活発に行われていること、また産学官との連携の取り組みにより農の発信を行っていることが挙げられる。 改善、対応いただきたい点は、以下のとおりである。園内の歩道の枝の垂れ下がりが見受けられるため、利用者が歩きやすいよう剪定をしていただきたい。事業報告書の「果樹の品種」と園内看板にある品種名が一致していないため、その確認や更新をしていただきたい。本館内のバスの時刻表が更新されていなかったため、利用者目線で再度チェックしていただきたい。収支について、人件費の増大を長期的な目線で改善していただきたい。予算の立て方については収支が一致するように改善していただきたい。
令4年度	評価できる点として、学校等の連携や施設の活性化、開花に合わせたウメ園の開放など工夫しながら来園者が楽しめる取り組みを行っていること、温室でのアンケート実施など利用者ニーズを把握して施設運営に生かしていること、積極的に地産地消に取り組まれていることが挙げられる。コロナの影響がある中、積極的な情報発信に努められ、魅力を強く発信し、春の来客の伸びを含め入園者数が増加した点も評価できる。また、予想外の人件費高騰の中、特に自主事業については、あらたな取り組みを始めており、運営に関して意欲が感じられた。 今後は、駐車場等の綿密な管理（除草やせん定）、冬の集客策の強化に努めて頂きたい。また、利用料金の増収や人件費の削減に取り組んで頂きながら、計画的に修繕等を進めて頂きたい。事業報告概要について、やむを得ずに起こったことに対応したことを新たな取り組みとしているため、評価を受けるという観点からも、しっかり分析を行って頂きたい。

3 利用状況等

具体的な取組みや成果等

既存施設のリニューアルや季節ごとのイベント開催等を行い、施設の魅力増進及び集客に努めた。コロナ禍では大規模なイベント開催に制限がある中で、感染症対策を行いつつ、工夫しながら様々な体験イベント等を実施した。

入園者数平成30年度：428,976人 令和1年度：502,736人 令和2年度：395,593人 令和3年度：442,853人 令和4年度：493,589人

4 収支状況等

具体的な取組みや成果等

デマンド装置の導入など経費削減にも努めたが、対象期間を通じて、支出が収入を上回った。また、収益還元は対象期間の最終年度だけ行なった。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移

イベント時の利用者満足度アンケートにおいて「とても満足」または「満足」の回答割合は高かった。サクラのイベントは年ごとの開花状況にもよるためか、同割合が年によって56～93%と幅があった。

6 総合評価 [☐ ◎ ☒ ○ ☐ △ ☐ ×]

所管局のコメント・特記事項等

評価できる点として、計画したレストハウス等のリニューアルやレモン園の設置・運営を実施し、果物の農業公園として魅力向上を行ったこと、コロナの影響がある中、新聞やテレビなどへの積極的な情報発信に努められた結果、入園者数等の増加ができたことが挙げられる。また、コロナ禍が落ち着いてきた中、指定後、初めて収益還元したことも評価したい。

一方、元々の予算立てからは収益還元もまだ足りないため、ぜひ改善して頂きたい。また、不具合を未然に発見するような施設の維持管理の充実や冬場の集客事業の充実に努められたい。さらに、計画がまだ実施途中のものや遅れているものを再確認頂き、施設の改修や魅力アップをさらに進めて頂きたい。